

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年11月28日更新

事務事業名	図書館運営司書配置事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康		所属部	教育委員会事務局	課長名	北里 利朗
	施策	10	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名	森田 由貴恵
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供		所属班	図書館	(内線)	2532
予算科目	会計一般	款10	項5	目8	事業連番11015	根拠法令	図書館法第13条(職員)	
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		
						成果優先度評価結果		: ⑩
						コスト削減優先度評価結果		: ⑥

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	合志市立図書館の経常的な健全運営のため、非常勤職員として司書等を25名配置している。司書等の仕事内容の主なもの、①資料の分類・整理に関すること②資料の閲覧・貸出返却等に関すること③資料の製本及び修理に関すること④その他図書館の目的達成のため必要な事項に関すること平成27年11月の図書館の開館に伴い、旧合志町は5名、旧西合志町は8名を任用した。蔵書冊数・貸出冊数の増加などにより、各々の館で司書を増員した。今後も貸出冊数の増加が予想され、レファレンス業務の専門性も増すことが予想されるため、司書等の事務量が増えるものと思われる。※レファレンスとは、利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務である。また、需要の多い質問に対して予め、書誌・索引などの必要な資料を準備・作成する作業もこれに付随した作業であると言える。
【業務の流れ】	司書等の募集・任用関係、勤務管理(出勤日の調整・休暇等管理)、適切な労働環境づくり
【主な予算費目】	報酬・賃金
【意見や要望】	平成18年12月の議会の一般質問で「財政削減の一環として民間委託はできないか」という意見がだされていたが、司書の職務の専門性の特性からサービスの低下や図書館機能の低下が懸念される。重大な問題であることの理解を得ている。非常勤職員の更新任用が10年であり、専門的な知識を持ち経験豊富な司書の継続任用の必要性から、窓口等の業務委託を検討して行く。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動)28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
司書等を25名配置(内訳:西合志館15名、合志館10名)	行政改革大綱や集中改革プランにより平成29年度より指定管理者制度を導入。本事業は、指定管理者に移行される。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由 (11716) 図書館管理運営委託事業に統合されるため
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) ア: 出勤日数 日 イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) ア: レファレンス件数 件 イ:
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠	
専門的な知識やスピードを数値化できないためレファレンス件数を成果指標とした。・年度毎に大きければつきがあるため前年並の設定とした。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2)各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	予定	見込	見込
①活動指標	ア									
	イ									
②対象指標	ア	日	4,233	4,474	4,990	4,428				
	イ									
③成果指標	ア	件	12,525	12,353	10,000	7,117				
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A)事業費計	一般財源	千円	30,815	34,793	35,441	34,781			
		(A)のうち指定経費	千円	30,815	34,793	35,441	34,781			
(B)人件費計	(A)のうち時間外・特勤	千円	30,059	33,280	34,478	34,146				
	正規職員従事人数	人	3	5	4	3				
(B)人件費計	延べ業務時間	時間	280	356	360	400				
	(B)人件費計	千円	1,115	1,321	1,434	0				
トータルコスト(A)+(B)		千円	31,930	36,114	36,875	34,781				

事務事業名	図書館運営司書配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】利用者も多く達成できるものとする。 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 厳しい現状にある市民生活において、起業や就業・高齢者・闘病者等に対する充実した情報提供を司書の専門性を活かして成果を向上させる可能性がある。成果の向上には専門職司書の増員が必要である
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】指定管理者制度の導入により削減の余地あり <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】指定管理者制度の導入により削減の余地あり <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 司書の職務は多岐に渡っていることにより、全ての市民に公平・公正にサービスされている
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】指定管理者制度の導入により見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (CHECK)

大きなトラブルもなく、円滑に配置ができた。今後も、司書等の役割は重要になってくるので適切な配置をしていきたい。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策